

Ⅲ. 資 料 の 部

1. 震災後の歩み ―校務日誌より―

≪1/17(火) 晴≫

兵庫県南部地震発生 午前5時46分

直下型地震、震度7 大激震(後に阪神・淡路大震災と呼ばれる)

午前8時頃、校長は本校舎、教頭は第二運動場へ被害調査に行く。

被害状況

1) 校舎

○西側(南北)校舎

一階部分が押しつぶされた状態

○北側(東西)校舎

西側校舎や東側便所東の建物との接合部分の柱・壁面の亀裂・剥落が大きく各階とも同じ状況。建物本体は傾き沈下。

○幼稚園舎

南に傾き大きな亀裂が縦横に走り、大きく穴のあいた壁もある。崩壊の恐れあり。

○特別教室棟

大きな損傷はないが、全ワープロ機床に落下。

パソコン機も約50台落下。

○運動場

小さな亀裂があるが他は異常なし。

2) 第二運動場

○研修棟(自彊館)

建物異常なし。ガス漏れあり。業者呼ぶ。

○体育館

柱と屋根の接合部分の壁の剥落、東側出入口上の屋根の接合部分に拳大の穴あり。

2階東の消火水槽に小穴があき水が噴き出す。

○グラウンド

・下段グラウンド 小亀裂の長い教条が走っているが、西北の斜面、上段グラウンドとの間の斜面は共に異常なし。

・上段グラウンド 地面に巾5～10cmの亀裂が1本あり。(約10m) 関西電力社宅との境界ブロック塀が約15m倒壊、社宅の乗用車2台にもたれかかる。

3) 校舎周辺の状況

- 腕塚町6丁目商店街の火が漸次延焼。来校した職員は住民とともに、学校隣接の“もやし商店”の井戸水で消火にあたる。学校の消火栓より放水しようとするが、水は一滴も出ず。
- 特別教室棟隣接の東側パチンコ店及び南側店舗が火炎を噴き出した。階段踊り場に集積されたワープロの空箱を引火の恐れありと見てグラウンドに投げ出す。
- 幼稚園舎隣接の東側腕六ビルが火炎を噴き出したが、消防署員により沈下。
- 国道側ブロック塀約20mにわたり崩壊。

≪1/18(水) 晴≫

○運営委員会14:00～16:00 於 家庭科室

連絡事項

- 全交通機関途絶のため当分の間休校とする。
- 生徒への連絡は事態の状況を把握し、見通しを立ててから行う。
- 災害対策本部を一時家庭科室とする。明日来校できる職員で設営にあたる。

≪1/19(木) 晴≫

◎職員会 於 家庭科室 出席29名

1. 被害状況と対応の経過について一校長・教頭
2. 校長より

- 被害甚大の報告を県教育課にしたが、指示支援は無理。
- 本校舎を建設した佐藤工業(株)が本日視察。
- 現校舎は授業再開は不可能なので、第二運動場にプレハブ校舎を建設し、授業再開予定。

3. 今後の対応について

- 対策本部は自彊館に置く
- ラジオ関西に放送依頼
放送文…“神戸女子商業高等学校の生徒の皆さんは、指示あるまで自宅待機しなさい。”
- 学級担任からクラスの生徒に連絡
 - ・生徒の被害状況の報告(死傷・焼・壊等)
 - ・指示あるまで自宅待機
 - ・他のクラス、学年の情報収集
- 入試に関する対応
 - ・県私立中高校長会の審議・決定に準ずる。
- 全商簿記検定一やむなく受験中止。

○職員の被害状況を学年ごとにまとめて提出。

≪1/20（金） 晴≫

○対策本部を自彊館に開設

○緑が丘住民への給水車の給水場として、上段グラウンドを提供。乗用車の避難駐車も承認。

≪1/21（土） 晴≫

○訃 報

1年5組 大石朝美 家屋倒壊 死亡

3年10組 神原千里 家屋倒壊 死亡

生徒・職員からの問い合わせ、報告等の電話応対におわれる。

≪1/22（日） 雨≫

○関係中学校長宛の入試変更に関する文書を速達で郵送。

≪1/23（月） 雨≫

○入試委員会開催

①25日の県私立中高校長会の入試に関する変更通知を受けて、26日職員会を予定。

②入試部、27日より各中学校を訪問し連絡。

③入試について

○入学試験は調査書重視の方向で検討。

○入学手続き（全焼・全壊－入学金減額）

≪1/24（火） 晴≫

○本校舎よりの物品・書類の取り出し作業を実施。

○NHKテレビ・ラジオに対して生徒に向けての放送依頼。

西側校舎の倒壊・コンクリート塊の落下等の危険があるため、ロープを張り立ち入り危険と貼り紙をする。

≪1/25（木） 晴のち曇≫

○物品搬出・移送作業。

○余震に備え物品を移動。

○明日より職員の出勤は緑が丘第二運動場とする。

《1/26日（木） 曇》

◎学年打合せ会

- 1) 各クラス生徒の安否未確認者の氏名と人員の確認
- 2) 県私立中高校長会の入試についての申し合せについて報告
 - 入試日は2/15を2/26に延期
 - 選考方法は各校自由。書類選考も可
- 3) 学年の諸問題について
 - 校務各係で文書確認と整理作業
 - 連絡のとれない生徒への呼びかけの貼紙を各避難所に掲示－職員の地域分担

◎職員会 13:00～自彊館 2F 大広間

1. 校長より

1) 私学校長会の決定事項の報告

校舎復旧援助、国庫より50%か？

○入学金、授業料減免額は国庫補助いかんによる。

○県下死亡確認生徒36名、職員数名。

○校舎建て替え 8校

校舎再建・修理、教育機器購入については国庫補助を強く要望していく。

○教科書のない生徒への援助を要望

本校では手に入らない時はプリント学習をする。

2) 入試について

○2/26を初日とする（大阪・京都2/15）

入試の方法に制約はない。本校は書類選考とする。

○後期入試はいつ実施してもよい。

3) 授業再開について

プレハブ仮校舎をリース契約で建設する。

◎入試委員会

中学校訪問について打合せ

《1/27（金） 晴》

○生徒への連絡用ビラ貼り

学校に連絡のとれていない生徒に呼びかけの貼紙。全職員が地域分担をして各避難所、駅、人通りの多い所に貼る。

○入試委員 中学校訪問開始

≪1/28(土) 晴≫

- 入試委員 中学校訪問
- 教育機器等の移送作業(第二運動場等へ)
- 本日より複数による日・宿直制を実施する。

※漸次学校復旧に「何をなすべきか」が分かりはじめ、職員の動きも組織的となってくる。

≪1/29(日) 晴≫

- 特記なし
 - ・入試委員 中学校訪問
- 出勤した職員は随意書類整理等をする。

≪1/30(月)≫

- 入試委員 中学校訪問
- 移送作業
 - 家庭科室、保健室、生徒会室等より取り出された諸用品・機具等を移送する。

≪1/31(火) 晴一時小雪≫

- 入試委員 中学校訪問
- 商業科備品移送作業
 - ※ビラ貼りと放送
 - ・登校可能な生徒は登校するように各学級担任から連絡するとともに、未連絡生徒のためにビラ貼りをする。
 - ・ラジオ関西、サンTV、NHKTVにも放送を依頼する。

≪2/1(水) 晴一時雪≫

- 入試委員 中学校訪問
- 商業科備品類の移送作業

≪2/2(木)≫

- 移送作業
 - 入試委員会
 - 1. 各中学校宛の連絡文書郵送について
- 文書内容

①出願について

2/13～2/25まで緑が丘事務所に提出か郵送、または阪神地区は尼崎中小企業センターで、東播・淡路地区は明石グリーンヒルホテルでの出張受け付け、また、神戸地区は布引中学校か緑が丘で受け付け。

②入学手続きについて

○専願合格者 3/7 10:00～15:00

場所 緑が丘本校

尼崎中小企業センター

○併願合格者 3/24 10:00～13:00

場所 専願者の時と同じ

≪2/3（金） 晴のち曇≫

- 入試に関する連絡文、見舞文の発送
- 初代理事長・校長熊見直太郎先生胸像移送
- NHK（大阪）小林浩記者取材に来校
主に就職内定取消し状況について取材
- 私学公論社より取材

≪2/4（土） 曇≫

- プレハブ校舎建設の業者による測量 - 青木建設

≪2/5（日） 曇時々雨≫

- 青木建設 仮設校舎敷地整備作業

≪2/6（月） 曇後晴≫

◎職員会 10:15～12:20

1. 校長より

全職員総力をあげて復旧に尽力されたい。2名の生徒と生徒家族に死者が出たことを残念に思い、ご冥福を祈る。

- 仮設校舎について

建設予定 2/26までに24教室 3/28までには仮設校舎（44教室分）を完成したい

- 上須磨団地自治会長宅に挨拶に行ったことについて

- 学校として住民の方に迷惑をかけないことや他に通学路はないか検討する。

○長田校舎について

神戸市再開発事業地域に指定された。

場合によっては立ち退きもあろう。

○授業料・考査料減免について

家屋の全・半焼、全・半壊・世帯主の死亡で困窮している者を対象。私学は県の補助のいかにかかっている。

○進級・卒業の認定について

無条件で進級・卒業をさせてやりたい。

○今後の生徒の出欠について

弾力的に扱うこと。

○授業再開にあたって、交通事情を考慮し始業時間を遅くし、短縮授業としたい。

○修業式は3月末にして、出来る限り授業日数を確保したい。

2. 卒業式について

2/23(木)を延期して2/28(火)卒業証書授与式 11:00～12:00 体育館

3. 校務各部より

1) 入試部

・2/13～2/15 阪神・神戸市東部・本校・明石の4ヵ所で願書受付

・2/26 入学者選考 書類選考

2/27 中学校長宛 合否発表郵送

・3/7 入学手続き 尼崎・本校

・後期入試について

受付 3/20～3/24

選考 3/24 書類選考

・入学手続き 3/24 本校

2) 教務部

○学年成績評定について

○出席日数 1年170日 2・3年171日

上記に今後の登校日数を加える。

○校長表彰について

○「阪神大震災に関する調査」－全校生

○「阪神大震災についての作文・詩」を課題として第2回学年登校日に提出

○平成7年度教育課程について

3) 進路指導部

○就職について

約600事業所に震災見舞状を発送した。

・採用取消し6社9名(2/6現在)

・採用内定取消しとなった生徒を優先採用したいという事業所がある。

○進学について

大学・短大受験について、証明書類なしで受験させてもらうよう要望した。

4) 生徒指導部

学校登校日の当番依頼

5) 庶務部

宿日直の継続依頼

《2/7(火)》

仮設校舎建設始まる

○3年学年登校日 13:00～14:30

震災後 最初の登校日(登校可能な者)

出席 550名中 419名

伊丹・尼崎方面より約4時間かけて登校

○集会に先立ち災害死の3年神原千里、1年大石朝美、生徒家族の方並びに5,200余名の英霊のご冥福を祈って黙禱を捧げる。

1. 学校長の話

学校被災状況の説明、今後の学校再建とその見通し、卒業式を2/28に挙行等、元気づけとともに希望喚起の話

2. 学年集会

自宅待機中の心得、家庭学習(課題-大震災の作文・詩、学習プリント)、進路に関する事、卒業式のこと、被災状況調査

《2/8(水) 晴》

○2年学年登校日 13:00～14:30

出席 543名中 395名

日程は3年と同じ プリント学習指示

※プレハブ校舎の杭打ちにかかったが、地盤が固く、杭が入らないため別の工法を考えるため工事中断。

≪2 / 9 (木) 曇≫

○1年学年登校日 13:20～14:30

出席 582名中 444名

日程は3年と同じ

≪2 / 10 (金) ≫

○表彰委員会 10:00～11:00

○卒業認定会 14:00～15:00

◎職員会

※2 / 13より出勤時刻を10:00とする。

但し、交通機関途絶の地域があり目処とする。

◎表彰委員会

1. 卒業時校長表彰

○学業努力賞

○技能努力賞

○体育功労賞

○文化功労賞

2. 外部団体受賞候補

3. 年度校長表彰

○学業努力賞

○技能努力賞

◎卒業認定会

卒業認定

平成6年4月1日 在籍560名

中途退学9名 休学1名

死亡除籍1名

※神原千里災害死したが卒業を認定する。

○校長卒業認定裁断－550名

◎職員会

1. 卒業時校長表彰受賞者審議

2. 外部団体表彰受賞候補者審議

3. 年度校長表彰受賞者審議

4. 皆勤賞受賞決定

○3か年皆勤160名

○1か年皆勤122名

5. 被災生徒の授業料について 校長より

○私学の被災生徒の授業料についても減免措置を行うことを兵庫県は発表。

- ・金額は不明・期間は1月～12月まで
- ・対象は家屋半壊以上の被害・世帯主の死亡
- ・罹災証明書が必要

○その他

- ・校舎の解体作業を15日より行う
- ・入学手続きの日は妙法寺駅から緑が丘校舎まで送迎バスを走らせる予定

6. その他

○進路指導部より

- ・内定取消し8名のうち他社よりの求人をうけ採用内定したものあり
- ・採用時期を3か月・6か月等繰り下げた事業所もある

《2/11(土) 晴》

第二土曜日につき休業とする

久々に職員休養する

《2/12(日) 曇》

○神戸市教育委員会より救援学用品各種多数贈呈を受ける。

《2/13(月) 曇後晴》

○入学願書受付

※山原健二郎代議士(⊕高知)他共産党の方々が校舎被災状況視察

《2/14(火) 晴》

○仮設校舎組立て始まる

○入学願書受付

《2/15(水)》

○入学願書受付

《2/16(木)》

○校舎解体について現場での説明

○NHK・神戸新聞社より卒業式に関する問い合わせあり。毎日新聞社も同様の取材に来訪。

《2/17(金)》

○入試部打合せ 10:30～12:00

○文部省私学助成課私学第1～3各係長来校

被害状況視察

○神戸新聞社 下土居記者来校

卒業式に関する取材と仮設校舎建設工事写真撮影

※本日正午、阪神・淡路大震災の犠牲者の冥福を祈り、県下一斉に黙禱を捧げる。

《2/18(土)》

※NHK記者 取材電話あり

・採用内定取消し生徒に関すること

・卒業式について

《2/20(月) 曇一時晴》

○学年打合せ会

◎職員会 13:00～15:00

1. 入試に関する諸案件について

2. 授業再開について 3/1より

始業10:30 終業14:30

○1単位時間40分の4校時授業。

○土曜日も4時限で、第2土曜日も授業日とし、出来るだけ授業時数を確保する。

○登校できない生徒は書面か電話で届け出ると公欠とするが、連絡のないときは欠席とする。

○クラブ活動は生徒の帰宅に要する時間を考えて遅くならないようにする。

○週授業現行33時間を24時間とする。

○ワープロ、情報処理の実技指導は、授業から省く。

○3/1からの授業では教科書・学用品のない生徒のことを考えプリント学習とする。

○3月終わりの授業で学習効果確認テストを実施。

3. 通学指導について

4. 学年登校日の指導について 教頭より

- 住所・避難先に変更のある者の調査
- 前回課題の回収 学習プリント・作文
- 次学年で継続使用教科書のない生徒数調査
- 3/1よりの授業についての説明
- 登下校時の心得指導

5. 進路指導部より

- 就職状況報告
 - ・採用内定取消の件
 - ・内定者自宅待機 2か月・3か月・1年・無期各1社
 - ・職場変更1社
 - ・追加求人 被災生徒対象 6社

6. 仮設校舎・新校舎について 校長より

- 仮設校舎建設計画について
- 旧校舎解体には2か月を要する。管理棟内の文書・物品の取り出しは3月中旬の予定。
- 旧校舎所在地の再開発計画は3月中旬に発表される予定
- 本校の復興は、旧校舎の地が一番望ましい。
 - 2/17に文部省より係長3名が視察に来校。大蔵省・文部省の視察も予定。
- 授業料・入学金の減免について

≪2/21(火) 曇のち晴≫

- 3年学年登校日 13:00～14:30
- 出席 350名(在籍の64%)
- 卒業式について

≪2/22(水)≫

- 2年学年登校日 13:00～14:30
- 出席 428名(在籍の79%)
- 前回の課題・作文・詩の回収
- 家庭学習用プリント配付
- 自宅待機の心得

≪2/23(木)≫

- 1年学年登校日 13:00～14:30

出席 403名（在籍の69％）

○2年と同様の指導をする。

※NHK・毎日放送より取材電話あり。

≪2/24（金）晴一時曇≫

○仮設校舎建設について

緑が丘1丁目住民への説明会 19:40～21:20 於自彊館

出席 自治会長他住民約50名

≪2/25（土）≫

○職員会 10:00～11:30

○入試合否検討委員会

○同 職員会

◎職員会

1) 仮設校舎説明会報告

○緑が丘に仮設校舎建設の理由

○住民側の苦情・意見の説明

○仮設校舎について

・騒声防止のため、校内放送のボリュームを下げる

○南側校舎にある窓に目隠しをする

○クラブ活動ー早朝練習はしない。

合宿は迷惑にならないよう注意

住民に静かな環境を保証するように

○3/1からの授業再開について

2) 入学金・授業料減免について

減免となる金額、入学金は34万円

授業料等月平均諸費 21,400円

3) 入試合格発表について報告

◎入試合否判定委員会

≪2/26（日）≫

☆入試合格通知書を中学校長宛発送

《2/27(月)》

○卒業式予行演習 11:15～12:30

《2/28(火)》

○第38回 卒業証書授与式 11:00～12:15

卒業生 550名

来賓 7名 保護者 180名

○NHK・毎日新聞 取材に来校

《3/1(水)》

○講師連絡会

《3/2(木)》

○学年打合せ会 2・3年

※私学公論社より取材に来訪

《3/3(金)》

○授業再開 10:30～14:30

40分授業 4校時まで

出席状況

2年 在籍 540名 出席 518名 出席率 96%

1年 在籍 574名 出席 548名 出席率 95%

各教室の整備作業

《3/4(土)》

○3年学年打合せ会

《3/5(日)》

特記事項なし

《3/6(月)》

○平成7年度入学手続準備

本校および尼崎中小企業センター

≪3／7（火）≫

○平成7年度入学手続（専願）

手続終了者

本校215名 尼崎71名 計286名（未了7名）

※罹災証明書提出 57名

≪3／8（水）≫

○朝日新聞社記者 取材に来校10:00～13:30

写真撮影

≪3／9（木）≫

○校舎震災被害状況調査に来校

文部省より調査委託された、千葉大学 野口博教授他6名

≪3／10（金）≫

○文部省・大蔵省より校舎の被害状況調査に来校 10:30～14:00（県総務部教育課職員同行）

長田校舎を視察後、緑が丘仮設校舎を見学され、被害状態等について調査

≪3／13（月）≫

○運動場整地作業始まる

≪3／14（火）≫

○正副学年主任会 15:30～19:30

※震災で死去した1年大石朝美さんの母親来校。被災した生徒で制服をなくした人にと持参して下さる。

※東からの通学生徒に遅刻、欠席が多い。

欠席理由として登下校の疲れ（片道2時間以上の者多し）・風邪等の病気・多額の交通費等。

≪3／15（水）≫

◎運営委員会 10:00～

1) 3学期授業出欠の扱いについて

2) 1、2年修業認定について

≪3/20(月)≫

○後期入学願書受付 20日～24日

≪3/22(水)≫

◎表彰委員会

- 1) 年度校長表彰候補推薦審議
- 2) 修業認定候補について
- 3) その他

≪3/23(木)≫

○旧校舎、職員室、事務室等の公私重要・必要文書の取出し作業(全職員)

現地集合 10:00 作業終了 17:30

神戸新聞記者 取材に来場

≪3/24(金)≫

○後期願書受付〆切

○後期入学手続 本校・尼崎の2か所で

※校長室、法人本部、会議室等の重要・必要文書、物品の取出し作業(9:00～16:00)

≪3/25(土)≫

○修業認定会 13:30～15:30

○職員会 15:40～17:45

(含、校長表彰受賞候補審査)

◎進路指導部関係

○就職状況

○震災による採用取消し 10人

採用時期繰下げ 9人

○震災後に求人があっても生徒の気持ちが落ち着かないのか乗って来ないものが多数あった。

○進学状況

◎教務関係

○年間授業日数 1年 196日 2・3年 197日

震災後の自宅待機日が多く、授業日をできるだけ取り戻すため修業式を遅らせ3/29とした。

しかし、平年より20日余日少なくなった。

○震災のため各種検定試験の実施が不可能となった。

≪3/27(月)≫

○授業最終日

※消防設備等査察に須磨消防署より来校

≪3/28(火)≫

○学年集会 LHR 大掃除

≪3/29(水)≫

○平成6年度修業式

11:00～11:30

○離任式

○LHR 12:00～12:40

○総括職員会 14:00～14:30

2. 本校生徒の活動状況（平成7年度）

〈ワープロ部〉

7. 4. 23 兵庫県高等学校ワープロ競技大会
ワープロの部 団体優勝
個人優勝 天 野 広 美
個人準優勝 西 原 由季子
個人第3位 後 藤 めぐみ
英文ワープロの部 団体準優勝
個人優勝 藤原シャロン
個人第3位 元 栄 とよこ
7. 5. 3 近畿地区高等学校ワープロ競技大会
ワープロの部 団体準優勝
個人準優勝 西 原 由季子
第3位 天 野 広 美
英文ワープロの部 団体第3位
個人第3位 藤原シャロン
個人第3位 元 栄 とよこ
7. 8. 4 全国日本語英文ワープロ情報処理競技大会
ワープロの部 団体準優勝
個人総合第3位 西 原 由季子
個人文書作成の部 優勝 天 野 広 美
準優勝 西 原 由季子
英文ワープロの部 個人総合第3位 元 栄 とよこ
個人文書作成の部 第3位 元 栄 とよこ
7. 8. 7 全国高等学校ワープロ競技大会
個人佳良賞 西 原 由季子

〈珠 算 部〉

7. 6. 4 全国高等学校珠算競技大会兵庫県予選
個人総合第11位 西 家 千 佳
県代表として全国大会出場
佳良賞 中 馬 寛 子
7. 10. 15 全日本通信珠算競技大会神戸地区大会 団体優勝
全日本通信珠算競技大会兵庫県大会 団体優勝
8. 1. 14 兵庫県高等学校珠算競技大会
団体第3位
個人準優勝 西 家 千 佳
個人第4位 谷 麻理子

〈吹 奏 楽 部〉

7. 8. 1 兵庫県吹奏楽祭兼コンクール神戸地区大会 銀 賞
8. 1. 7 兵庫県アンサンブルコンテスト神戸地区大会
木管楽器五重奏 銀賞
管打楽器四重奏 銀賞

〈コンピューター研究部〉

7. 8. 4 全国日本語英文ワープロ情報処理競技大会
情報処理の部 個人佳良賞 北 本 幸

〈アニメーション部〉

7. 7. 29 全国高等学校漫画選手権大会「まんが甲子園」
団体準優勝

〈ソフトテニス部〉

7. 4. 16 兵庫県高等学校ソフトテニスインドア大会
個人優勝 松本・大原組
第 3 位 岡田・森組
第 3 位 高橋・植村組
7. 5. 4 神戸市高等学校ソフトテニス大会
個人優勝 岡田・森組
準 優 勝 松本・大原組
第 3 位 高橋・植村組
7. 6. 12 兵庫県高等学校総合体育大会ソフトテニス大会
個人優勝 岡田・森組
準 優 勝 松本・大原組
第 3 位 高橋・植村組
7. 6. 23 ハイスクールジャパンカップソフトテニス大会
個人出場 松本・大原組
7. 7. 22 近畿高等学校ソフトテニス大会
団体第 5 位
7. 7. 27 兵庫県民体育大会ソフトテニス競技
個人優勝 岡田・森組
7. 8. 5 全国高等学校総合体育大会ソフトテニス大会
団体第 9 位
個人第 3 位 岡田・森組
7. 8. 10 神戸市高等学校新人夏季ソフトテニス大会
団体優勝
7. 8. 27 日・韓・中ジュニア東アジアソフトテニス大会
日本代表 岡田・森組
7. 9. 8 全国ジュニアオリンピックソフトテニス大会
個人第 3 位 岡田・森組
7. 10. 1 天皇杯・皇后杯 全日本総合ソフトテニス大会
個人出場 岡田・森組
7. 11. 10 兵庫県高等学校ソフトテニス新人大会
団体優勝
個人優勝 石原・井上組
準 優 勝 上 荷・辺見組

〈バレーボール部〉

7. 4. 16 神戸市内高等学校バレーボール春季リーグ戦
女子Ⅱ部優勝 I 部昇格

7. 5. 7 神戸市内高等学校春季バレーボール大会
ベスト6
優秀選手賞 麻 田 陽 子
7. 8. 10 神戸市内私立高等学校バレーボール大会 第3位
7. 9. 10 兵庫県私立高等学校バレーボール大会 第6位
7. 10. 8 神戸市内高等学校バレーボール秋季リーグ戦 女子I部 準優勝
7. 11. 5 神戸市内高等学校バレーボール新人大会
第3位
優秀選手賞 松 本 美 紀

<ハンドボール部>

7. 5. 3 神戸市春季ハンドボール大会 女子I部 準優勝
7. 8. 25 兵庫県民体育大会ハンドボール競技 女子合同の部 準優勝
7. 9. 15 神戸市秋季ハンドボール大会 女子I部 優勝
7. 11. 23 兵庫県高等学校ハンドボール新人大会 第3位

<剣 道 部>

7. 5. 4 近畿高等学校剣道練成大会 団体第3位
7. 10. 1 兵庫県剣道新人戦神戸地区大会
団体準優勝
個人第3位 八代 醒 栄

<卓 球 部>

7. 5. 3 神戸市内高等学校卓球大会
団体第8位
個人第8位 富 澤 千 紘

<アーチェリー部>

7. 6. 10 兵庫県民体育大会アーチェリー競技
30mWの部 個人優勝 山 田 由香里
7. 9. 17 神戸市アーチェリー新人戦
30mWの部 団体第2位
7. 10. 29 神戸杯アーチェリー大会
30mWの部 第3位 市 川 久美子
7. 11. 11 兵庫県アーチェリー新人戦
30mWの部 団体第3位
30mWの部 個人第4位 市 川 久美子

<バスケットボール部>

7. 6. 11 神戸市西部私立高等学校バスケットボール大会 第3位
7. 7. 30 神戸市私立高等学校バスケットボール大会 ベスト4

<ソフトボール部>

7. 8. 6 兵庫県民体育大会ソフトボール競技 第5位

3. 阪神大震災が及ぼした影響の一斑

－意識と行動の変化－

教 頭 野 垣 重 行

はじめに

平成7年1月17日未明発生した未曾有の大震災で、本校は生徒死亡2名・校舎倒壊・長期にわたる家庭学習、さらには仮設校舎への移転という甚大な被害を被った。広範囲に及ぶ校区、とりわけその中心である神戸・阪神地区の生徒の家庭も多大な被害を被った。多くの生徒は家屋の倒壊・火災・長期にわたるライフラインの途絶等で、避難生活という非常時の生活に追い込まれた。地震はこのような物理的影響に止まらず、生徒の心の奥深くまで影響を及ぼしているのではないかと推測される。この観点にたち総務部を中心に、心理的影響に焦点を合わせ、本校全生徒を対象に意識及び行動の変容を震災5か月後（7年6月17日）にアンケート方式による調査を実施した。

1. 生徒を中心とした被災状況の概要

○家屋の倒壊等の被災（被災による授業料減免生徒数 H7.7現在）

	1年(368名)	2年(567名)	3年(539名)	合計(1,474名)
全壊家庭	28	55	56	139
半壊家庭	56	88	78	222
全焼家庭	3	3	3	9
半焼家庭	0	0	1	1
合 計	87	146	138	371
	23.6%	25.7%	25.6%	25.2%

家屋の一部損壊家庭数（アンケートより）362

○自宅外での避難生活体験者数

公共の避難所	198名
知人・親戚先	288名
そ の 他	53名

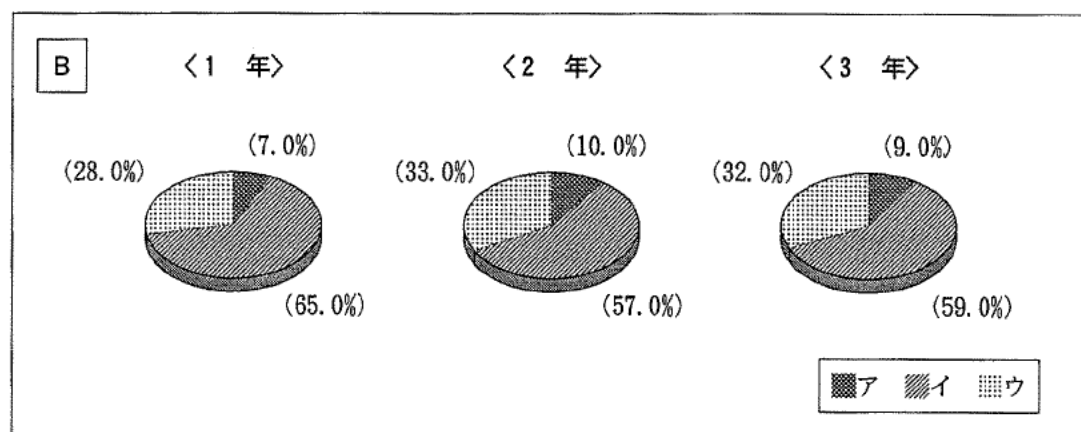
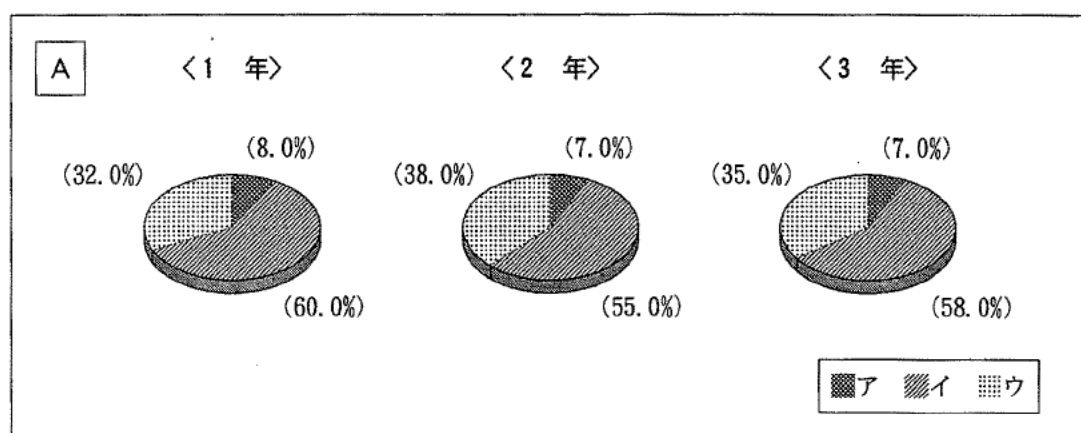
上記が示すように、全生徒数の3分の1強の539名（36.6%）が避難生活の体験者である。中には山口県、島根県の公立高校へ特別に入学許可され転校した生徒もいる。

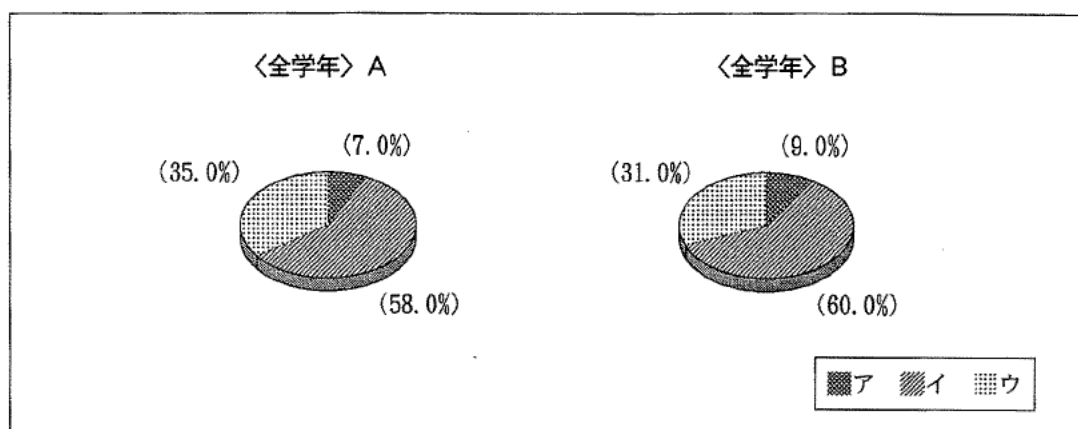
2. 調査結果の考察（Aは全生徒、Bは全半壊、全半焼及び一部損壊生徒）

（1）地震に対する恐怖感・不安感の残存について。（Q1、Q2、Q3）

Q1. 余震についてあなたはどんな気持ちですか。

- ア 今もとても怖い。
- イ 大分慣れたがまだ怖い。
- ウ もう怖くなくなった。





Q 1 は、余震から来る地震に対する恐怖感の残存調査である。〔ア〕〔イ〕の計が、全生徒 A. 65%、B. 69%という数値は、地震 5 か月後にもかかわらず恐怖心が根強く残っていることを示している。なお A 生徒で〔ア〕は 7%ではあるが実数でいえば 100 名を越える生徒数で、この数は教育上特別に配慮を要する生徒として、カウンセリングを含め個別指導が必要かもしれない。

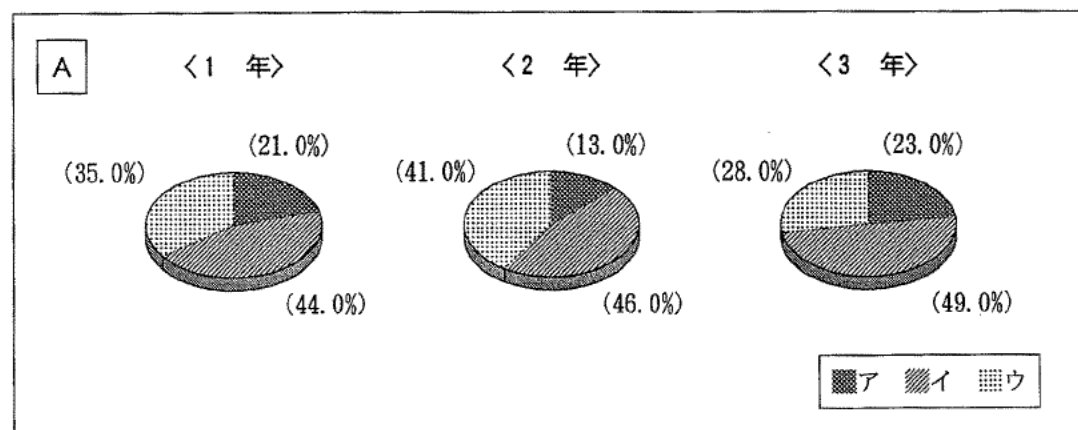
Q 2. 「ドーン」といったような音に対してどんな気持ちですか。

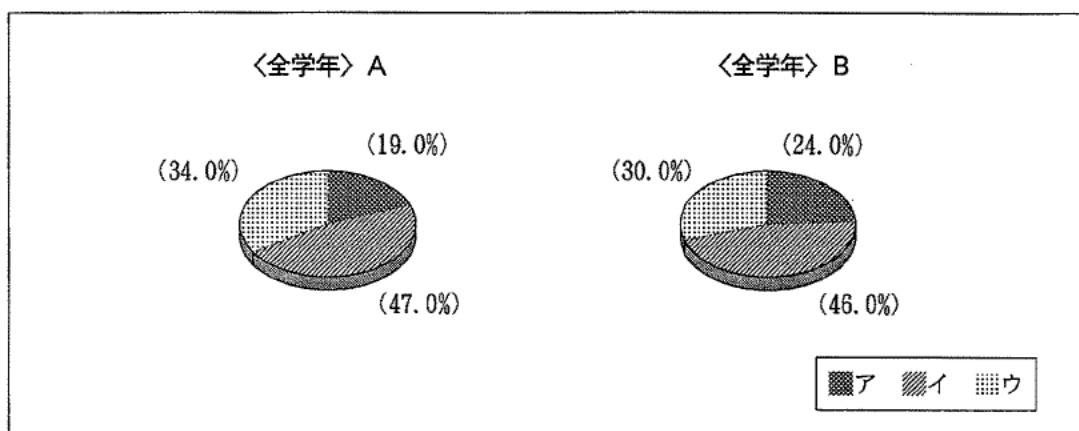
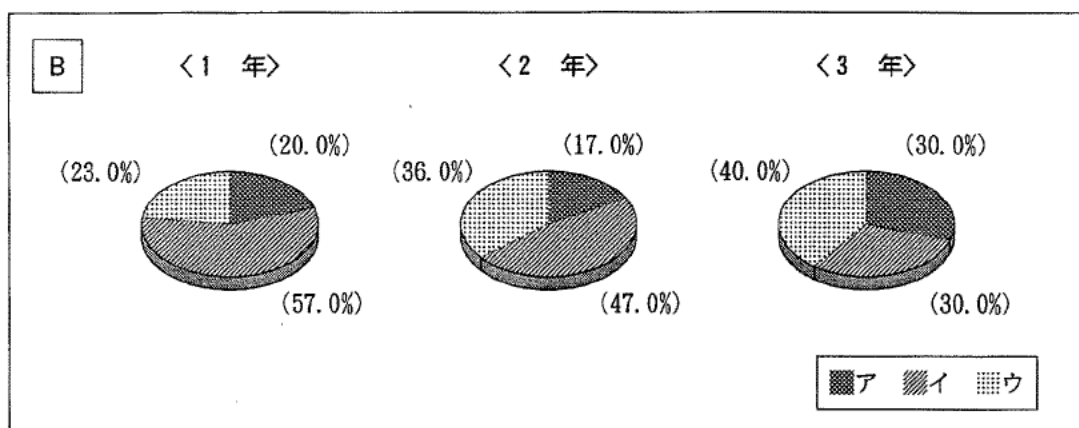
ア すぐに地震を連想して、音に敏感になりとても怖い。

イ かなり慣れたが、やはり怖さが残っている。

ウ ほとんど平常に戻り、あまり怖くなくなった。

Q 2 は、今回の直下型地震の強烈な「ドーン」という具体的な音から来る地震に対する恐怖心の



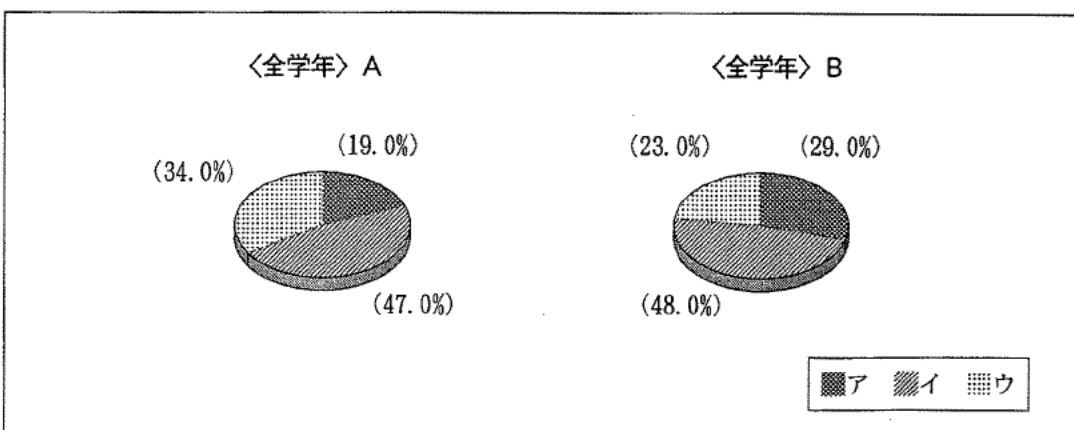
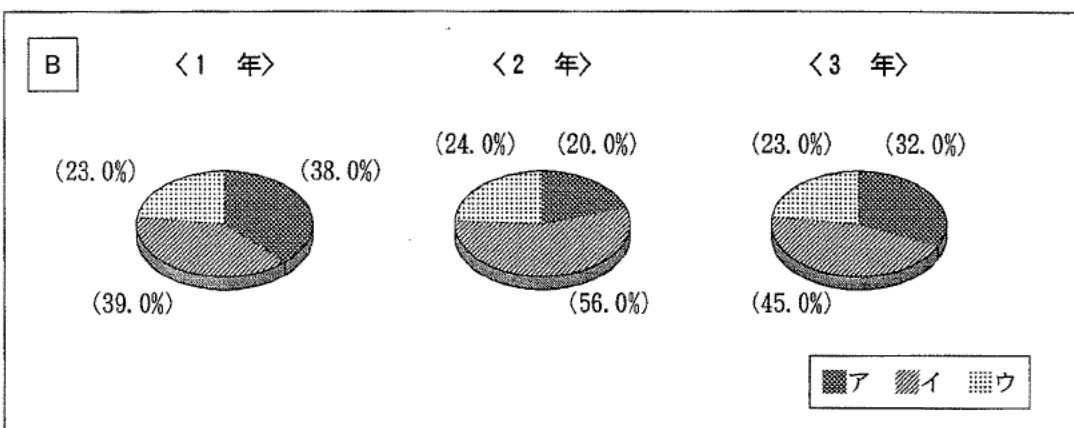
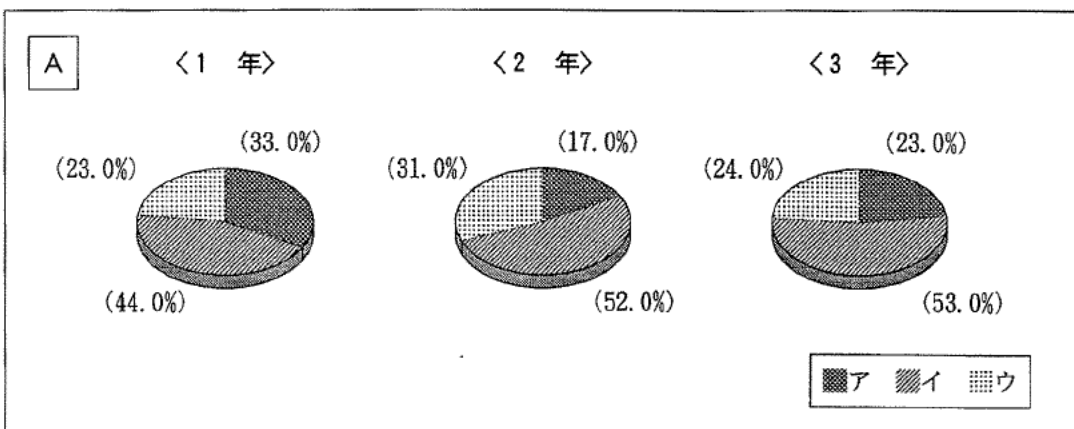


残存調査である。

結果をQ1とQ2で比較すると、[ア] Aで7%対19%、Bで9%対24%とQ2の方が断然高い数値を示している。やはり地底から突き上げるような「ドーン」という音は、強い恐怖心を引き起こすと同時に、生徒の心に残存させたのだろうか。また[ア+イ]ではQ1と同傾向であるが、Bの[ア+イ]が1年77%、2年64%、3年60%と3年生が一番低い。このことから低年令ほど恐怖心が残存する傾向が強いと言えないだろうか。

Q3. 地震の再発に対する不安感がありますか。

- ア とても不安である。
- イ まだ不安感が残っている。
- ウ ほとんどなくなった。



Q 3 は、余震とか地震音といった具体的なことから恐怖心の残存と異なり、地震体験からの漠然とした地震に対する不安感の調査である。

Q 1、Q 2 と比較して特徴的なことは、[ア] の数値が高いことである。特に全学年 B では 3 分

の1が不安を訴えており、[ア+イ]が77%で地震再発の不安感が非常に高い。

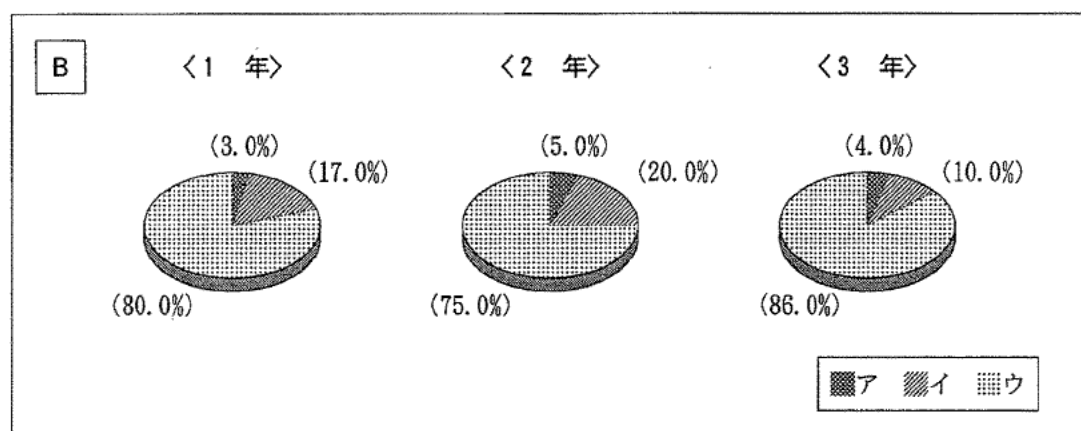
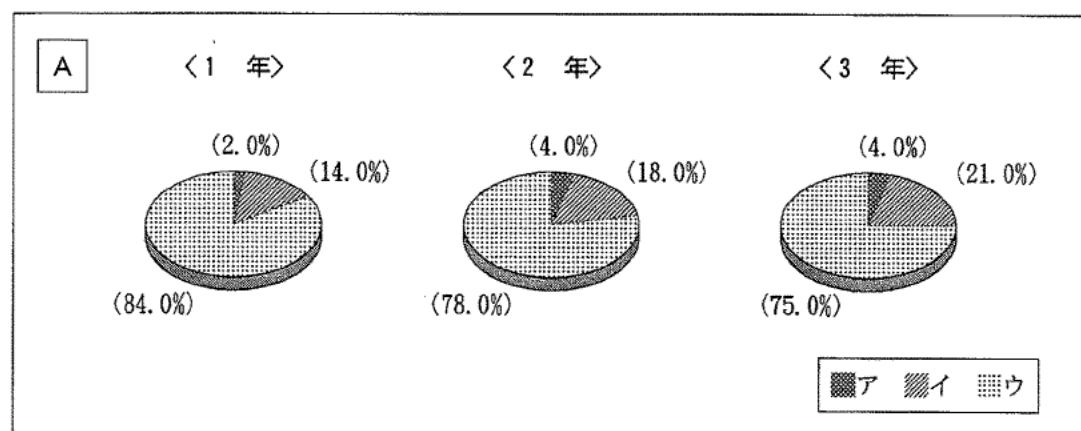
(2) 地震に対する気持ち・意識の変化について (Q 4、Q 5)

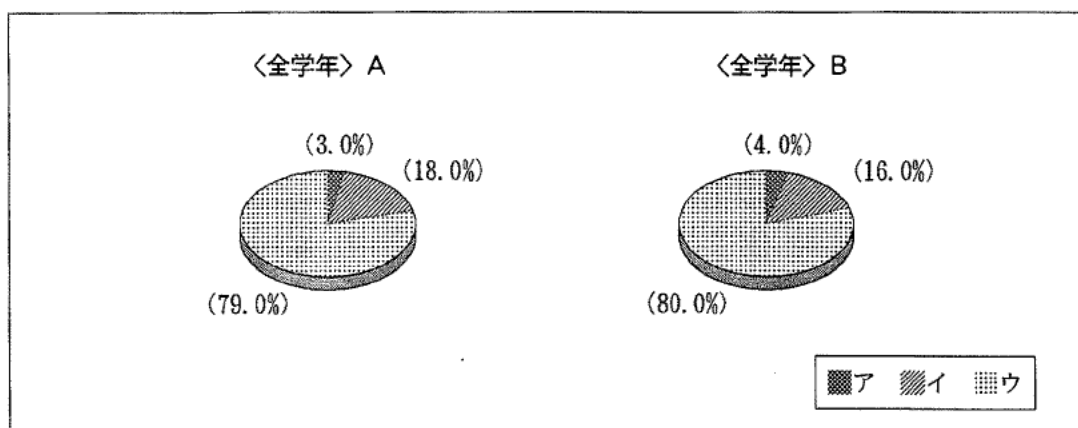
Q 4、地震後、あなたの日々の生活で気持ちの変化はありますか。

ア 落ち着きがなくなり、何かいらいらするようになった。

イ 地震前と比べると、少しいらいらするようになった。

ウ ほとんど平常に戻り、あまり変化は感じない。





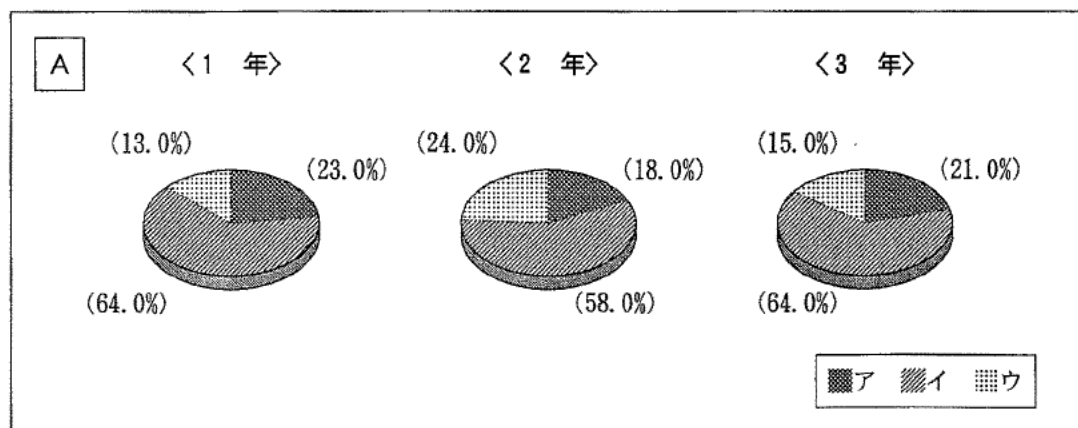
Q 4 は、地震を原因とする精神的不安定感（焦燥感）の調査である。全学年 A、B の比較ではほとんど傾向は変わりなく、「いらいら感」を訴える生徒は20%前後で回復が案外に早いことがわかる。この焦燥感が地震に起因することは容易に理解できるが、具体的にはプライベートの保障された生活が出来ない、登校・学習も不能、友達との交流・外出も不能といった、日常性から非日常性の生活への転換からの「いらだち感」と思われる。従って、生活の復旧・安定と共に回復されると推測されるが、全学年 A の 3 %（実数44名程度）については、特別の配慮が必要であろう。

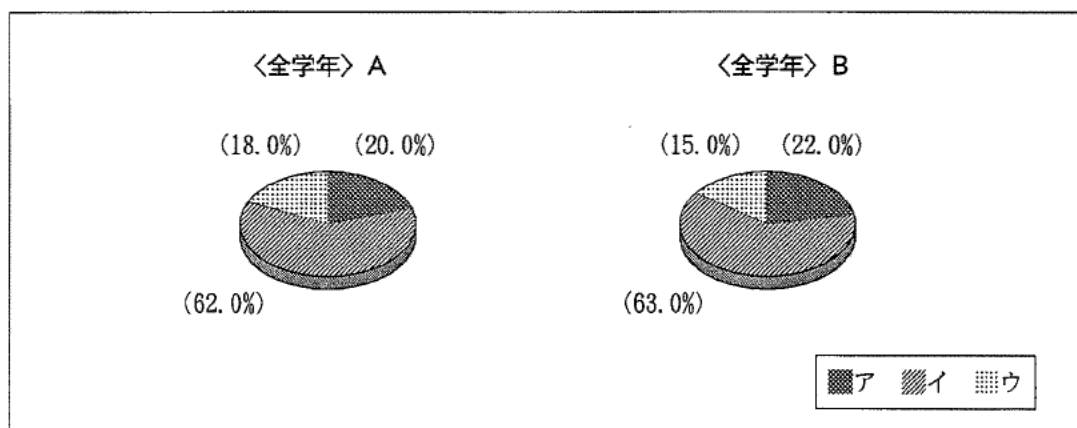
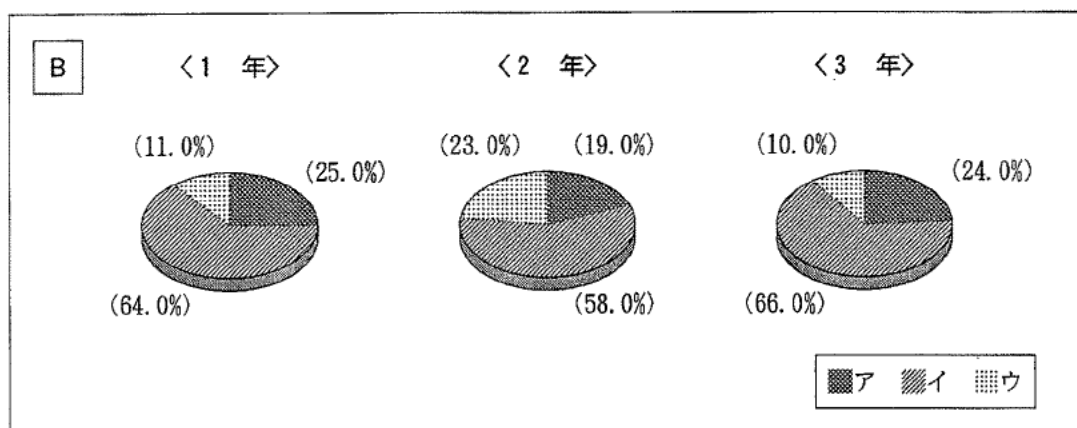
Q 5. 地震後、自然に対してあなたの気持ちの変化はありますか。

ア 自然の偉大さ、怖さを感じるようになった。

イ いままではあまり感じなかったが、自然の偉大さ、怖さを感じた。

ウ あまり変わらない。





Q 5 は、自然に対する意識（畏敬の念を中心に）の変化の調査である。

現代っ子の自然に対する畏敬の念の欠如がとかく話題になる昨今、この回答から地震体験を通して自然に対しての意識（畏敬）の高まりを読み取ることができる。〔ア＋イ〕の計が、全学年A. 82%、B. 85%という数値は教育上大変興味深い。現在の教育で体験学習の重要性が説かれているが、この数値はそれを裏付けていると言えよう。

〔ア〕だけをみると、当然のこととしてBの方が高い数値を表しているが、いずれも20%前後と自然に対する高い認識の変化が読み取れる。この項目についてはまた後でも触れる。

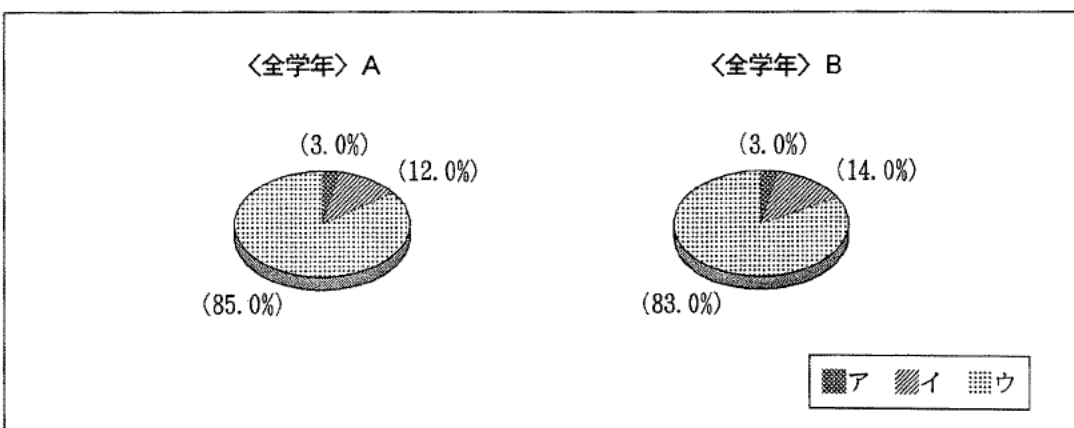
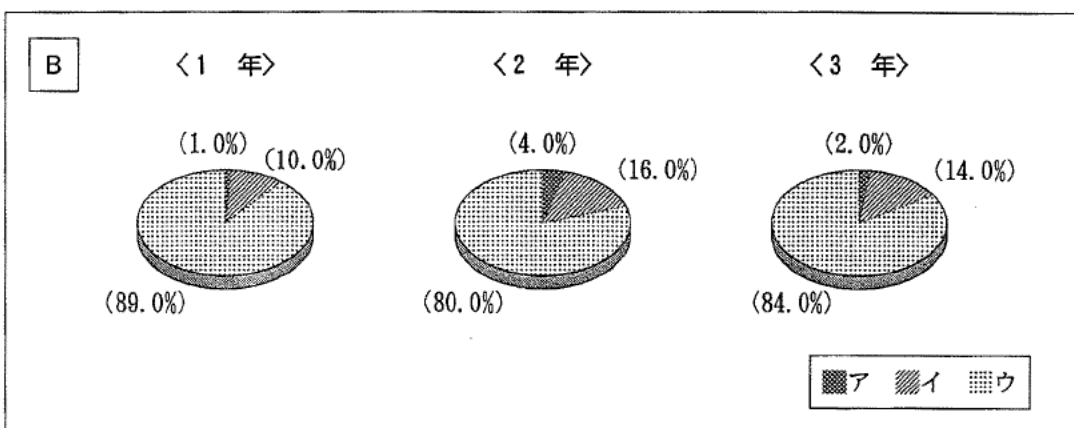
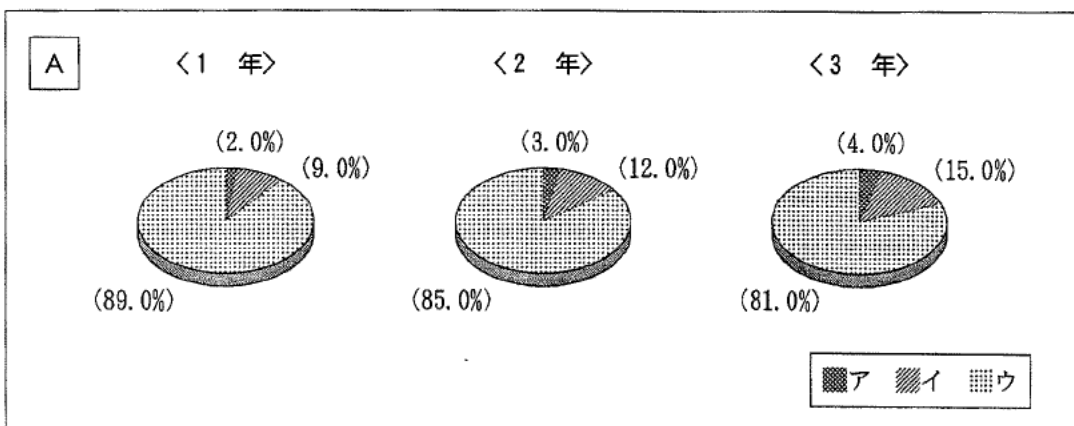
(3) 地震後における生活の変化について（Q 6、Q 7、Q 8、Q 9）

Q 6. 地震後のあなたの睡眠のようすの変化はありますか。

ア 寝付きが悪くなり熟睡できなくなった。

イ まだかなり寝付きが悪い。

ウ 以前とあまり変化はない。



Q 6 は、人間の生活の基本である睡眠状態の変化の調査である。まず全体をみると、全学年〔ウ〕でA. 85%、B. 83%と回復のようすが伺えるが、一方〔ア+イ〕の計で全学年A. 15%(実数200名強)、B. 17%も気になる数である。Aについてみると、1年. 11%、2年. 15%、3年. 19%

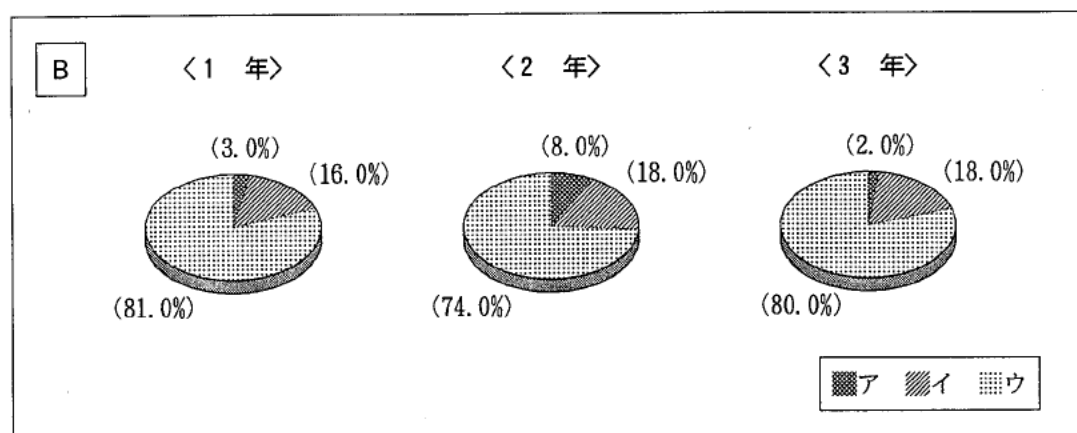
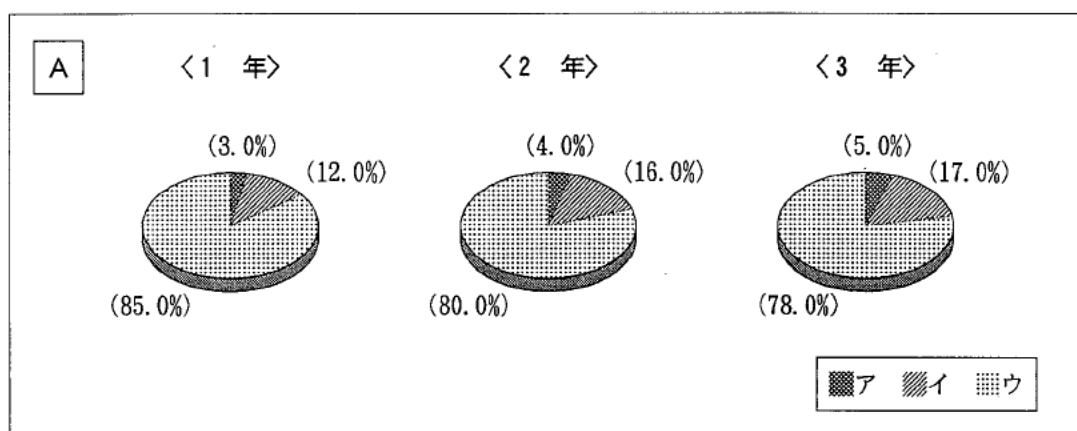
と理由は解らないが、低学年の方が回復の早さを表していることも興味深い。

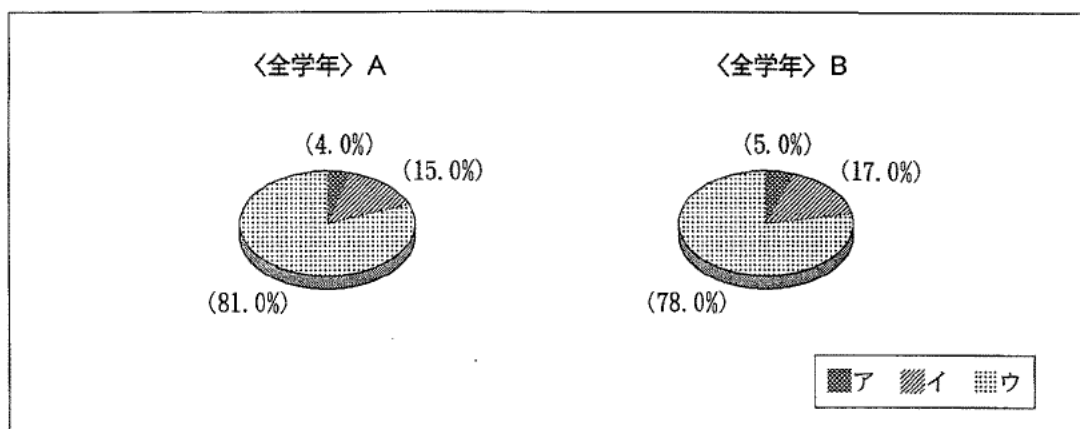
Q 7. 地震後あなたの学習に対する変化はありますか。

ア 精神が集中せず学習意欲が減退した。

イ かなり平常に戻ったが、やはり気持ちの集中が難しい。

ウ 以前とあまり変化はない。



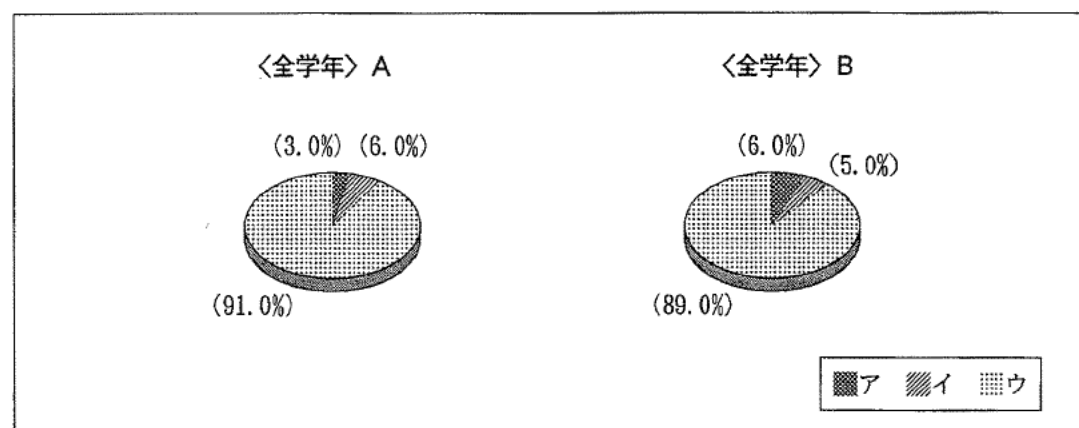
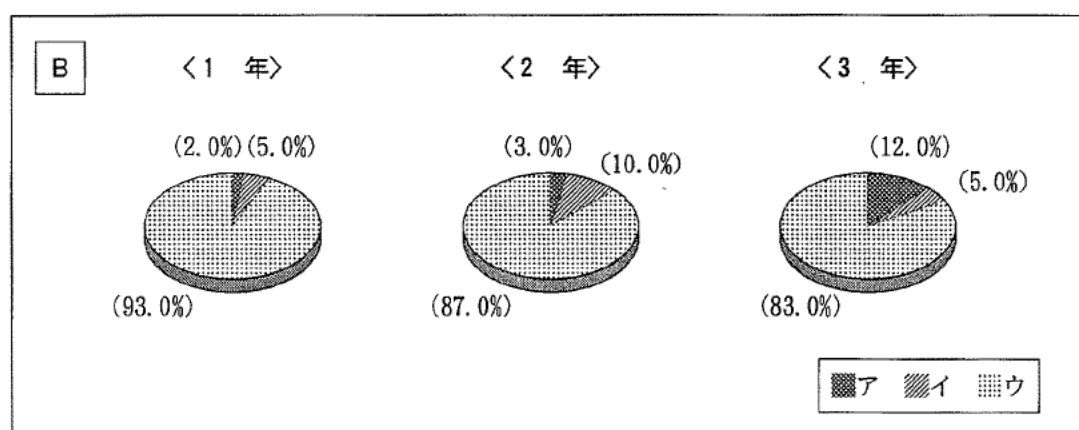
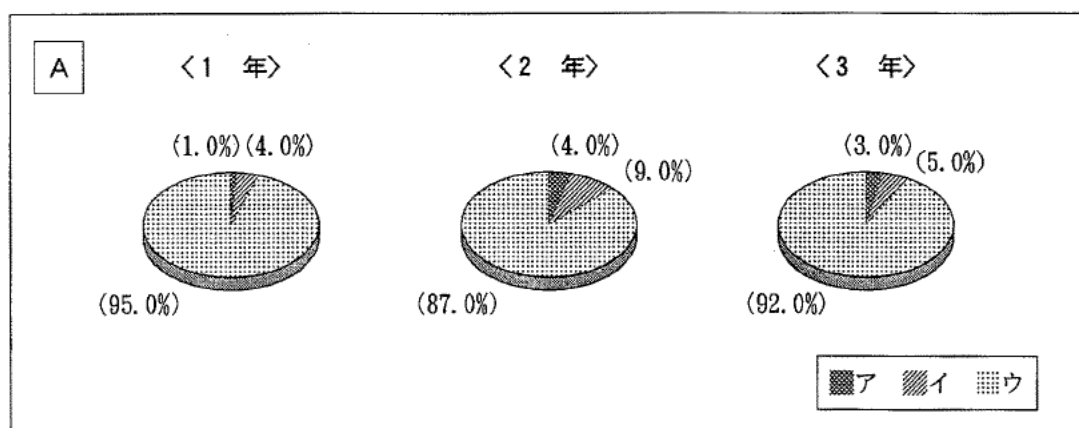


Q 7 は、高校生の基本である学習意欲の調査である。全学年 [ア+イ] で A. 19%、B. 22% が意欲の減退や精神の集中の難しさを表明している。これは、やはり長期にわたる家庭待機・家庭学習あるいは震災による学用品・学校指定品の損失等具体的要因も関係していると思われる。3月3日の授業再開日には、教科書損失生徒のためにコピー配付による授業も記憶に新しい。興味深いことは、Q 4「焦燥感」、Q 6「睡眠」、Q 7「学習」の相関関係が高いことである。全学年の比較 [ア+イ] は次表のようになる。

	A	B
Q 4	21	20
Q 6	15	19
Q 7	19	22
Q 9	16	18

Q 8. 地震後、学校の出欠状態はどうですか。

- ア かなり欠席が増えたように思う。
- イ それほどではないが、遅刻・欠席が増えたように思う。
- ウ あまり変化はない。

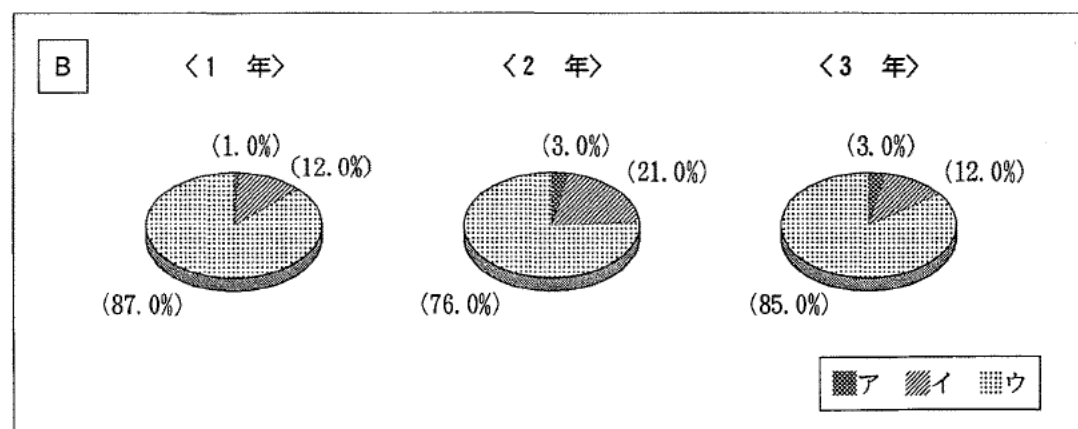
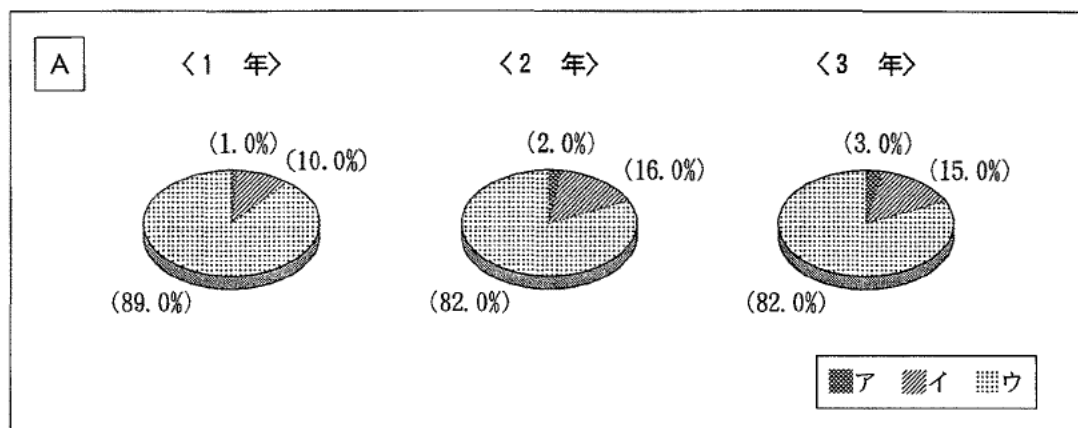


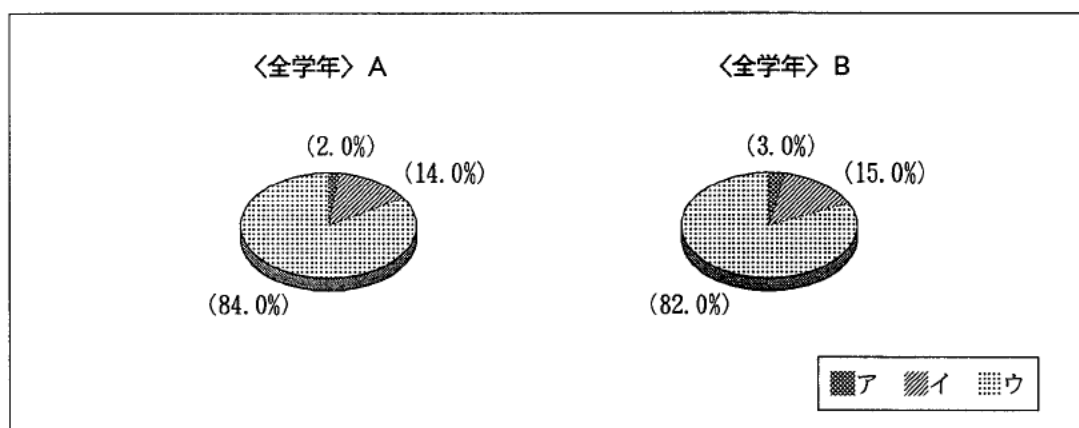
Q 8 は、非日常性の生活（避難生活・ライフラインや交通機関の途絶等）から、また心理的影響が原因と思われる学校の出欠状況の調査である。地震の影響による物理的原因（交通機関の途絶、校舎の移転等）を配慮し、始業時刻・下校時刻は交通機関の復旧に合わせ調整した。

欠席・遅刻の状態は、3月3日の授業再開日当初は若干目立ったが、日を追うに従い平常に回復してきた。生徒の意識としての出席状態は全学年「ア＋イ」でA、9%、B、11%とやはり回復が早い。2年生でA、Bともに「ア＋イ」が13%という数を示し、直接に関係があるかどうか不明であるが、1学期に進路変更生徒が他学年より多かったことも気になる。

Q 9. 地震後あなたの生活習慣（起床、食事、学習、就寝等）に変化はありますか。

- ア 乱れたままである。
- イ まだ少し乱れた面がある。
- ウ ほとんど平常に戻った。



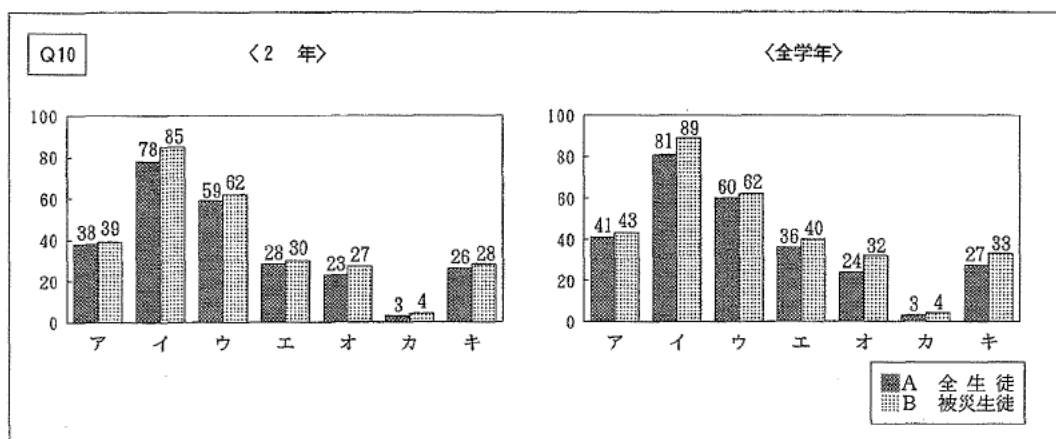
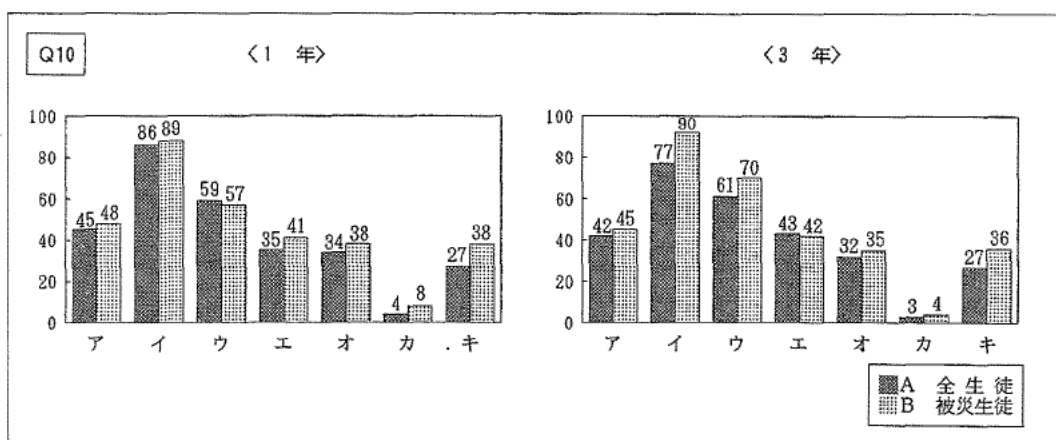


Q 9は、Q 6「睡眠」、Q 7「学習」、Q 8「出欠」といった具体的変化に対して、総合的に「生活の乱れ」という観点での意識調査である。Q 4、Q 6、Q 7との相関関係が高いことも当然と言えよう。[ア+イ]の計が2年生が特に直接被害家庭が集中したとは思えないが、A18%、B24%と高い数値を表しているのはなぜだろうか。

(4) ボランティア活動に対する意識について (Q10)

Q10. ボランティア活動を体験したり、あるいは新聞・テレビ等でその活動を知りあなたはどう感じましたか。(複数回答)

- ア とても感動した。
- イ 助けあいの大切さがよくわかった。
- ウ 人の心の触れ合いのよさがわかった。
- エ 若者の行動力に感心した。
- オ 自分も機会があればやってみようと思う。
- カ 別に何も感じなかった。
- キ 平素からボランティア活動が必要だと思った。



震災直後、新聞・テレビ等で全国から集まる若者を中心とするボランティア活動が盛んに報道され、世人の注目を引いた。本校は被害が大きく、全校生徒の初登校も遅れたために組織的にはボランティア活動に参加は出来なかった。生徒の一部（148名）が、自主的にボランティア活動に参加していたことが判明したのは授業再開後であった。そこで、ボランティア活動に焦点を合わせ、その意識を複数選択で調査した。

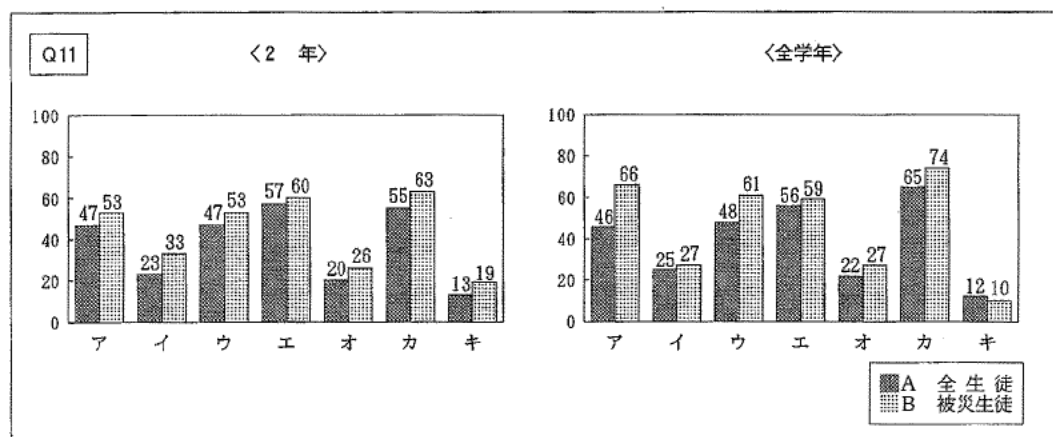
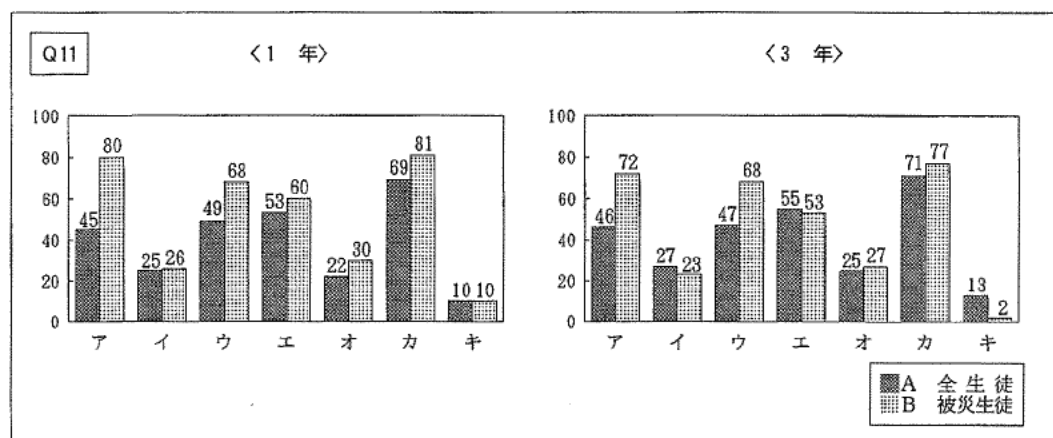
各学年A、B共に「イ」を一位に共通した傾向がみられる。全学年で考察すると「イ」「助け合い」でA. 81%、B. 89%、「ウ」「心の触れ合い」A. 60%、B. 62%と人間関係の協力が上位2位を占めていることが注目に値する。また「ア」「感動」でA. 41%、B. 43%と感動体験を経験することにより、高いとは言えないが、「オ」「活動意欲」A. 24%、B. 32%を示していることも興味深い。これは地震を体験学習の場として、ボランティア活動に対する意識が高められたと言えないだろうか。物質文明中心の現代社会の中で、とすると心の触れ合いが薄くなる傾向のある今日、ボランティア活動を通して生徒達は、人の心に目を向け人間的ぬくもりを実感したと言え

よう。A、Bの比較においては、総ての項目わたって、B生徒の数値が高くなっていることは当然のことと理解できる。

(5) 地震体験を通して感じたこと、思ったことについて。(Q11)

Q11. 震災という体験を通して、あなたは何を思いましたか。(複数回答)

- ア 人は自然の中で生活しているということを痛感した。
- イ 文明のもろさを知った。
- ウ 家族の絆の強さを知った。
- エ 人と人との心の触れ合いに感動した。
- オ 多数の老人の死亡を知り、弱者(老人、幼児、障害者等)に対する福祉の意識が芽生えた。
- カ 地震に対する備えの必要性を痛感した。
- キ 人のみにくさを知った。それは、どんなことがらですか。



Q11は、地震という強烈な体験から、体験学習として生徒たちが何かを学び取っていないかの調査である。各学年ともに同傾向の結果を表しているので、全学年を中心に考察したい。[カ]「地震に対する備え」でA. 65%、B. 74%と第1位を示している。これは各自の家庭で、また地域の中で地震による破壊のすさまじさを目撃することによって、わが家・わが街ともに備えの不十分さを強く意識した回答と思われる。ついで[ア]「自然の中での人の生活」、[ウ]「家族の絆」がほぼ同程度で高い数値を示し、[エ]「心の触れ合い」も高い。生活の便利さ・快適さ、豊かな食生活の追求が現代社会の指標かも知れないが、この結果自然の軽視・破壊を呼び、さらには物の追求のあまり心が軽視されているのが現代社会ではなかろうか。生徒たちは文明のよろさ（A. 25%、B. 27%）を知り、同時に人と自然との共存を強く意識したことを示唆している。とくに[ア]で、BがAを20%も上まわっていることも当然というものの興味深い。[ウ]「家族の絆」では、A. 48%、B. 61%と、社会集団の基礎集団としての家族を地震体験を通して見直す機会になったと思われる。[キ]「人のみにくさ」の自由記述方式の主な回答も付記しておく。

- がめつさ、自己中心的な考え方。
- 地震の影響を受けなかった人で、配給品をもらいに来る人がいて腹が立った。
- いい大人が自分だけ被災者ぶる。
- 報道番組のスタッフの取材もホドホドに。（写真マニアも困る）
- 倒壊した家・店から物を盗る人がいた。
- 避難所内で配給品の取り合いからケンカ口論。
- 自分の家が全焼で腹立ちまぎれに放火事件。
- 便乗値上げ（銭湯、屋根の修理、食料品）に腹が立つ。
- 心からのボランティアがほしかった。
- 生き埋めの人を近所の人には助けなかった。
- 避難所内の場所取りで譲り合いがなかった。
- 行列に割り込むおばさんに腹が立った。

誤解からこのような見方をしているかも知れないが、非日常性の現実の社会の中から、みにくい社会の一端を覗き見たことも事実であろう。マイナス効果をプラスに転化させることこそ教育に課せられた課題ではあるまいか。

(6) 地震が影響したと思われる意識の変化について。（Q12）

Q12. 地震後、あなたの考え方で変化があれば自由に書いて下さい。（自由記述）

Q12は、生徒の意識の変化をより一層探るための自由記述方式による調査である。生徒の記述をできる限り生かし、内容を分類して紹介する。（◎は頻度の高い回答）

1. 人間関係の大切を深めたと思われるもの。

- ◎家族の大切さを知った。
- ◎人の優しさが分かった。
- ◎若い人たちがすごくよく働いて素晴らしいと思った。
- ◎助け合える社会になってほしい。
- ◎ボランティア活動に関心を持つようになった。
- 避難所生活の中で個人の無力を痛感した。
- 人を外見だけで判断しなくなった。
- 福祉に関心を持つようになった。
- 「遠くの親戚より近くの他人」という意味がよく分かった。
- 老人の一人暮らしは心配。

地震体験から、人間は己れ一人では生きていけない、共に協力することによって社会が成立しているということを、家族関係から、あるいは近隣の人との接触から認識を深めたといえよう。同時に、老人の一人暮らしや孤独死を目前に見ることにより、福祉にも関心が高まってきていると理解される。

2. 自然災害に対しての意識の高まりと思われるもの。

- ◎災害に対する準備が不足。
- ◎地震に負けない街をつくりたい。
- ◎耐震性建築の必要性を痛感した
- ◎地震には以前より関心を持つようになった。（外国の地震にも）
- ◎屋根は瓦でない方がいい。

「関西には地震がない」という迷信をふっとばした今回の地震は、地震に対する生徒の目を覚まさせた。無残な屋根瓦、高速道路の倒壊、古い家並みの壊滅的打撃、さらには神戸を襲った大火災とてこずった消火活動、これらは生徒の脳裏に焼き付き「地震に負けない街を」と自然災害にたいしての意識を高めたといえる。

3. 自然や人の命に対する考え方。

- ◎自然の恐ろしさを知った。
- ◎人は自然に対して無力である。
- ◎人の命の大切さを知った。
- 人の命のはかなさを知った。
- 生きることの素晴らしさを知った。
- 人は簡単に死ぬことが分かった。
- 自分自身が強くなった。
- 自然を大切にし、人間の好き勝手にしてはいけないことを学んだ。

○自然の恐さを強く感じ、自然災害に対する見方が変わった。

死に直面するという体験は、当然のこととして自然に対する関心を高めるとともに、人知を越えた神秘感・畏敬の念を深める絶好の機会でもあった。自分の目前で、身内や隣人の死を目撃するという異様な体験は、人の死に対する認識に強い影響を与えたと推測される。「…人間の好き勝手にしてはいけない」の反応は、人間と自然の共存意識の芽生えとはいえないだろうか。

4. 社会生活についての関心の高まりと思われるもの。

◎ライフラインの大切さが身にしみた。

◎交通機関の有り難さがわかった。

◎ボランティア活動や福祉に関心を持つようになった。

○仮設住宅の高齢者のことを考えるようになった。

○ニュースをよく見るようになった。

地震直後、ライフライン・ボランティア・代替バス・仮設住宅・救援物資等、ふだんからあまり耳慣れない表現が街に氾濫した。これは、生徒たちにとって社会生活を別な角度から観察させ社会生活への認識を高揚させたといえる。

(7) 地震が及ぼした生活習慣の変化について。(Q13)

Q13. 地震後、あなたの生活習慣の中で何か変わったことがあれば自由に書いて下さい。(自由記述)

Q13は、地震の影響から日々の生活の中での具体的な行動の変化の調査である。

1. 地震に対しての備えと思われるもの。

◎非常持ち出しバッグを枕元に置くようになった。

(ラジオ、懐中電灯、衣類、非常食 その他)

◎高い所に物を置かなくなった。とくにガラス類は置かない。

◎水道、ガスは点検してから寝るようになった。

○出口に近い部屋で寝るようになった。

○家具の配置を考えるようになった。

○非常時の行動を家族全員で話し合った。

○自分が大切にしている物は持ち歩くようになった。

○親戚への連絡のため、電話番号帳を持ち歩くようになった。

○ペットボトルを常に置く。

○お風呂に水を張るようになった。

代表的な回答をならべてみたが、これらの行動が継続される保障はないが、将来家庭の主婦として自然災害に対する備えとしての行動、例えば非常持ち出し・ガスの点検等の習慣化は期待さ

れないだろうか。

2. 人間関係と思われるもの。

◎家族の話し合いが増えた。

○前よりお手伝いをするようになった。

○自分のことだけではなく、人の心配ができるようになった。

○近所の人にあいさつができるようになった。

社会集団の基礎集団としての家族内での相互の行動変化が伺える。日々平穏な生活から一転、今日一日の生活が脅かされるという非常時の生活の中から、家族間の協力態勢の確立、仕事の分担、非常時の行動についての対話等好ましい変化の一端が伺える。また救援物資の分配や避難所生活の体験からであろうか、近隣関係との結びつきの改善が読み取れる。

3. 物に対してと思われるもの。

◎水や食べ物を大切にするようになった。

◎食べ物を残さないようになった。

○物に対して執着心がなくなった。

○現金や大切な物は持ち歩くようになった。

現代社会は「豊かな時代」といわれ、「もったいない」という語はあまり通用しないようである。しかし突然襲った地震は、一時的であれ欠乏の社会の体験、共存のための相互協力と分配の生活を経験させ、物を大切にする、物を分かち合うという貴重な学習を体験させた。

4. 地震に対する不安からのもの。

○夜中に目を覚ますようになった。

○揺れを感じると机の下にもぐる。

○朝早く目を覚ますようになった。

○パジャマで寝ないようになった。

このように、地震に対応すると思われる行動は、不安からくる一時的な変化で習慣化されるとは考えられない。

以上の回答例から推察できることとして、地震に対する備えの意識の向上からの生活習慣の変化と、一方人間関係の大切さからの家族関係、近隣関係との行動変化が見られる。また、強烈な地震体験の中から気になる要素も内在している。例えば、「物を大切にするようになった」、「物に執着心がなくなった」の回答、また意識変化で「命の大切さを知った」、「命のはかなさを知った」等の二律相反する反応はどう解釈すればよいのかも教育現場の課題と言えよう。

おわりに

以上Q 1～Q13の調査結果は地震が女子高校生に及ぼした影響の一部にすぎない。調査結果から

も見られるように、その影響は外見上に止まらず、心の奥にまで及んでいると思われる。この心理的影響は低学年ほど強く、時には社会的適応にも問題が生じているのではないかと懸念される。青年期の女子高校生としては、地震直後においては、生活・学習面で若干問題が感じられたが、案外回復も早く、現段階ではほぼ平常に復帰していることはアンケート結果からも推測し得る。

4. 学校関連の新聞記事 p.132-137 省略